教科内容

3年生

科 目 名	衛生行政・社会福祉				授業担当者	儀間　裕	
開講時期	3年 前期				単位・時間数	2単位 30時間（内18時間担当）	
授業方法	講義	9	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

衛生行政全般に関する基本事項および歯科衛生士法、歯科医師法等の歯科衛生士の業務に係る関係法規を理解する。保健医療に関する統計調査とその動向について理解する。

≪到達目標≫

・我が国の衛生行政および歯科保健行政の沿革、組織（機構）機能について理解する。
・歯科衛生士に必要な歯科医療に係る法令や規則について理解する。
・保健関係統計調査の概要を知り歯科医療の現状と動向について理解する。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	我が国の保健行政と医療制度の概要および歯科衛生行政の沿革	○		
2	衛生行政の組織、地方自治体、保健所、市町村保健相談センター等の役割	○		
3	衛生関係法の意義、衛生行政に係る法規の種類と機能	○		
4	歯科衛生士法、歯科医師法等歯科衛生士の業務に係る法規	○		
5	厚生関係統計調査のあらましおよび主な保健関係統計調査の近年の動向	○		
6	歯科保健関係の統計調査と近年の動向	○		
7	国民の健康および受療状況、人口動態に係る統計調査	○		
8	超高齢社会における歯科保健の将来展望と歯科衛生士の役割	○		
9	まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う
出席状況、授業態度などを総括的に加味する

≪教科書・参考文献≫

「歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険」（医歯薬出版）
「歯科衛生士と法律・制度」（医歯薬出版）
「歯科六法コンメンタール　歯科関連法律の逐条解説　第2版」（ヒョーロン・パブリッシャーズ）

≪実務経験≫

平成17年より令和4年まで沖縄県保健医療部国民健康保険課にて指導監査専門医として主に医療機関に対する指導監査業務に従事した。その実務経験をもとに衛生行政の講義を行います。

科 目 名	衛生行政・社会福祉				授業担当者	嘉手納 一彦	
開講時期	3年　前期				単位・時間数	2単位 30時間（内12時間担当）	
授業方法	講義	6	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

我が国における社会保障制度を理解し、社会福祉・社会保険の仕組みと運用を理解する。
また、それに関連する法規を学習し習得する。

≪到達目標≫

１．社会保障制度について理解する
２．医療保険制度、年金制度、雇用保険・労働者災害補償保険制度、介護保険制度、社会福祉制度について理解する
３．災害時の歯科保健対応を理解する

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	社会保障制度について	○		
2	医療保健制度について	○		
3	年金制度、雇用保険・労働者災害補償保険制度について	○		
4	介護保険制度について	○		
5	生活保護制度、児童福祉制度について	○		
6	障害者福祉制度、高齢者福祉制度、災害時の歯科保健対応について	○		

≪評価方法≫

定期試験、ミニテスト等で評価を行なう
出席状況、授業態度などを加味する

≪教科書・参考文献≫

・歯科衛生士のための「衛生行政・社会福祉・社会保険」（医歯薬出版）
・最新歯科衛生士教本「歯科衛生士と法律」（医歯薬出版）
・公衆衛生がみえる2020～2021（メディックメディア）

≪実務経験≫

昭和63年歯科医師免許取得し、日本大学歯学部付属歯科病院にて補綴学を学び、琉球大学医学部附属病院及び那覇市立病院にて歯科口腔外科に従事。平成7年に歯科医院開設。平成25年より那覇市保健所健康増進課に勤務し公衆衛生及び健康づくり、歯科保健、感染症対策、災害医療等に従事。今までの臨床医、行政歯科医師の経験を活かし「衛生行政・社会福祉」の講義を行なう。

科　目　名	口腔保健管理				授業担当者	高良　政憲	
開講時期	3年　前期				単位・時間数	2単位 30時間（内12時間担当）	
授業方法	講義	6	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

1　口腔疾患を予防するための基礎的知識と健康教育の意義についての理解を高める

2　ライフステージごとの口腔保健管理の理論とその実地方法の修得

3　1及び2の実現のための臨床手技の修得

≪到達目標≫

1　口腔の健康のための基礎知識に習熟し、健康教育における専門家の役割を理解する

2　齲蝕と歯周病のリスク評価方法とその活用法を理解するとともにその限界を知ること

3　ライフステージごとの適切な口腔保健管理を実施できる事

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	口腔保健管理の意義と目標	○		
2	歯科保健教育と歯科保健行動について	○		
3	疾病の予防とリスク管理	○		
4	病勢阻止のための継続管理	○		
5	ライフステージごとの口腔保健管理（Ⅰ）	○		
6	ライフステージごとの口腔保健管理（Ⅱ）	○		

≪評価方法≫

出席状況、受講態度、試験成績、課題提出状況等を参考にして総合的に判断

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　「口腔保健管理」（医歯薬出版）

「歯科衛生過程HAND BOOK」（ｸｲﾝﾃｯｾﾝｽ出版）

「歯科衛生士ケアプロセス実践ガイド」（医歯薬出版）

「事例でわかる歯科衛生士過程」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

日本歯科医療管理学会会員　沖縄県歯科医師会学校歯科委員会所属。

平成2年～平成18年那覇市立鏡原中学校、平成19年～令和元年まで豊見城市立伊良波小学校校医を担当し、その経験をもとに講義をいたします。

科　目　名	口腔保健管理				授業担当者	眞玉橋 由和・志喜屋 やよい	
開講時期	3年　前期・後期				単位・時間数	2単位36時間（内24時間担当）	
授業方法	講義		演習	6	実験・実習・実技	6	
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

1 口腔疾患を予防するための基礎的知識と健康教育の意義についての理解を高める

2 ライフステージごとの口腔保健管理の理論とその実地方法の修得

3 1及び2の実現のための臨床手技の修得

≪到達目標≫

1 口腔の健康のための基礎知識に習熟し、健康教育における専門家の役割を理解する

2 齲蝕と歯周病のリスク評価方法とその活用法を理解するとともにその限界を知ること

3 ライフステージごとの適切な口腔保健管理を実施できる事

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	ｴｱｰｽｹｰﾗｰ基礎実習			○
2	〃			○
3	超音波スケーラー相互実習			○
4	〃			○
5	EPP･PTC相互実習			○
6	〃			○
7～12	業務記録･演習		○	

≪評価方法≫

出席状況、受講態度、試験成績、課題提出状況等を参考にして総合的に判断

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」（医歯薬出版）

「歯科衛生過程HAND BOOK」（ｸｲﾝﾃｯｾﾝｽ出版）

「歯科衛生士ケアプロセス実践ガイド」（医歯薬出版）

「よくわかる歯科衛生過程」「事例でわかる歯科衛生士過程」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科衛生士として障害者歯科センターで勤務。

主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務・受付業務を担当。

これまでの実務経験をもとに口腔保健管理について講義を行います。

科 目 名	歯科保健指導				授業担当者	眞玉橋 由和・志喜屋 やよい	
開講時期	3年　前期				単位・時間数	1単位　30時間	
授業方法	講義	6	演習		実験・実習・実技	9	
授業場所	(校内)	校外			教 員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

- 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア、セルフケア、コミュニティケアの基本となる知識・技術・態度を習得する
- 対象となる集団・個人に応じた歯科衛生教育活動の場を把握し、必要な知識技術・態度を習得する
- ライフステージと機能障害に応じた生活指導に必要な知識、技術・態度を習得する

≪到達目標≫

- 各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアとセルフケアの歯科保健の目標を説明できる
- 高齢者の口腔のケア時の留意点について説明できる
- 高齢者の口腔のケアに使用する器材について説明できる
- 高齢者に多く見られる全身疾患・状態別の口腔衛生管理の方法と留意点について理解する
- 要介護高齢者への口腔機能・口腔内の特徴を説明できる
- チーム医療の概念について理解できる
- 摂食・嚥下リハビリテーションの訓練的対応について説明できる
- 地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要を説明し、実施できる
- 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1.〜5.	ライフステージにおける歯科衛生介入《5コマ》 老年期、要介護高齢者、障害者、成人期、幼児期、大規模災害被災者	○			△	
6.〜9.	要介護高齢者への口腔ケア《4コマ》 臨床現場における歯科衛生士の役割 口腔ケア(義歯ケア含)の実際				○	
10.〜11.	高齢者の状態の把握《2コマ》 高齢者の生活機能評価	○				
12.〜15.	地域歯科保健活動　臨地実習《4コマ》 地域歯科保健活動における健康教育の実践				○	

≪評価方法≫

- 定期試験(1回)により判定する.試験は100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う
  課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

- 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）
- 「歯科衛生士のための　摂食・嚥下リハビリテーション」第２版（医歯薬出版）
- 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第２版（医歯薬出版）
- 周術期口腔機能管理の基本がわかる本（クインテッセンス出版）
- オーラルヘルスケア事典（学建書院）・口腔保健実践ガイドブック　第２版　（学建書院）

≪実務経験≫

歯科衛生士として障害者歯科センター・歯科診療所で勤務。
主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務・受付業務を担当。
これまでの実務経験をもとに歯科保健指導について講義を行います。

科 目 名	医療保険実務				授業担当者	上田　隆一郎	
開講時期	3年 前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	13	演習		実験・実習・実技	2	
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

保険診療の基本的なルールの理解。

カルテ用語、病名、レセプトの書き方を理解し、カルテを読めるようになる。

≪到達目標≫

主なカルテ用語、病名の理解。

カルテを読んで、レセプトを作成できるようにする。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	保険診療の成り立ちと基本的な流れについて。	○	△	
2	カルテ、レセプト病名の理解。	○	△	
3	初診料・再診料について	○	△	
4	医学管理料について	○	△	
5	在宅医療について	○	△	
6	検査・画像診断について	○	△	
7	投薬・麻酔について	○	△	
8	処置について	○	△	
9	リハビリテーションについて	○	△	
10	手術について	○	△	
11	歯周疾患について	○	△	
12	歯冠修復・ブリッジについて	○	△	
13	レセコンについて			○
14	歯科衛生実地指導の実習			○
15	まとめ	○	△	

≪評価方法≫

毎授業ごとにテストを行います。

期末試験

≪教科書・参考文献≫

プリントを用意します。

≪実務経験≫

歯科臨床歴30年、診療所などでの実務経験をフィードバックして講義を行う予定。

歯科衛生実地指導について実習を行います。

レセプトの作成、レセプトコンピュータの学習

科 目 名	臨地・臨床実習				実習担当者	実習指導者・指導教員	
開講時期	3年　前期・後期				単位・時間数	13単位　585時間	
授業方法	講義		演習		実験・実習・実技	293	
実習場所	校内		(校外)		教　員	(兼任)	(専任)

≪学習目標≫

歯科衛生士業務を習得するために歯科診療の場及び地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。

≪到達目標≫

*臨床実習

・歯科医師からの指示内容を理解し、実践できる

・歯科衛生のサービスを行うにあたって、その必要性を科学的に説明できる

・資料やデータから歯科衛生業務の内容を判断し、内容に応じた行動ができる

・対象者に応じた保健管理指導ができる

・スタッフ（多職種を含む）と連携して共同動作、必要なサービスができる

・業務記録の記述ができる

*臨地実習

・プライバシーを配慮した態度で対応できる

・対象者の守秘義務を遵守できる

・安全管理に配慮した行動ができる

・感染予防(消毒・滅菌、手指消毒)対策に応じた行動ができる

・対象者の要求や相談内容を判断し、内容に応じた応対ができる

・指導者からの指示内容を理解した行動ができる

・スタッフ（多職種)と連携して必要なサービスができる

・対象者に応じた保健管理指導ができる

・集団を対象に歯科衛生教育活動が実践できる

・現場に応じた業務記録の記述ができる

・カンファレンスの必要性を理解した発言ができる

実習スケジュール		実習方法		
	内　容	講義	演習	実験・実習・実技
1	歯科診療所実習			○
2	病院実習（口腔外科）			○
3	口腔保健医療センター			○
4	障害者施設			○
5	高齢者施設			○
6	市町村保健相談センター			○

≪評価方法≫

臨床実習評価表、出席状況、課題提出により評価する

≪教科書・参考文献≫

「歯科衛生士のための最新歯科用語辞典　ポケット版」（クインテッセンス出版）

歯科衛生士教育サブテキスト「臨床実習HAND　BOOK」（クインテッセンス出版）

科 目 名	先進歯科概論（審美歯科）			授業担当者	真喜志　早江子	
開講時期	3年 前期			単位・時間数	1単位 15時間(内8時間担当)	
授業方法	講義	4	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校内	校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

口腔の健康な形態と機能を学び、自然美の獲得、回復を目標に、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士が専門の知識と技術を最大限に発揮するチーム医療を目指すものである。

≪到達目標≫

1.美に関する基本的な知識と、センスを磨く。

2.審美歯科に関する診査・治療・メインテナンス・予防について理解する。

3.口腔が、健康美のベースとして担う役割を理解し、患者さんのＱＯＬ向上に貢献できる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	美しさとは？（美の世界観・価値観）	○	△			
2	顔の話（顔学会情報）	○	△			
3	審美歯科臨床Ⅰ（歯周・小児・保存・補綴・外科）	○	△			
4	審美歯科臨床Ⅱ（矯正、咬合育成、ホワイトニング）	○	△			

≪評価方法≫

出欠状況、授業態度を踏まえて、定期試験で、総括的評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

顔面のバランスと審美　：木下善之助（医歯薬出版株式会社）

審美歯科　：土屋 和子　（医歯薬出版株式会社）

デンタルエステティク　PartⅠ～Ⅶ　：クインテッセンス社

≪実務経験≫

歯科医師として宮下矯正歯科医院に勤務。主に矯正、審美歯科治療を担当。

宮下矯正歯科医院での実務経験をもとに審美歯科について、講義を行います。

科 目 名	先進歯科概論(インプラント)				授業担当者	川畑　剛	
開講時期	3年　前期				単位・時間数	1単位　15時間（内8時間担当）	
授業方法	講義	4	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

先進歯科医療の一つとしてのインプラント治療の概略を理解し、臨床の実際と歯科衛生士としての役割について、その知識を深める

≪到達目標≫

1.インプラント治療の歴史と倫理的背景について理解する

2.インプラントの治療術式について理解する

3.インプラント治療における診療補助の重要性を理解する

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	オッセオインテグレーションの発見と変遷、インプラント治療における審査、診断	○				
2	インプラントの外科手術	○				
3	インプラントの補綴術式	○				
4	インプラントのメンテナンス	○				

≪評価方法≫

定期試験で、総括的評価を行う。

出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する。

≪教科書・参考文献≫

講師著書、論文等随時配布。

「口腔インプラント治療指針」（医歯薬出版）2020年版

≪実務経験≫

歯科医師として医療法人健生会上原歯科クリニックにて勤務。

日本口腔インプラント学会専門医、沖縄歯科インプラント研究会会長を担当。

この実務経験をもとに講義を行います。

科 目 名	総合歯科学				授業担当者	古堅　信	
開講時期	3年　後期				単位・時間数	4単位　120時間	
授業方法	講義	60	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	(専任)

≪学習目標≫

1年～3年までに学んだ歯科医学に関する専門基礎分野、専門分野の知識の整理･まとめを行い
国家試験対策を行う。

≪到達目標≫

1. 専門基礎分野について理解できる
2. 専門分野について理解できる

≪授業計画≫

科目	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技	科目	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	解剖学まとめ(年度担当講師)	○					21	小児歯科学まとめ(年度担当講師)	○				
2	組織発生学まとめ(〃)	○					22	障害者歯科学まとめ(〃)	○				
3	生理学まとめ(〃)	○					23	高齢者歯科学まとめ(〃)	○				
4	生化学まとめ（〃）	○					24	歯科放射線学まとめ(〃)	○				
5	口腔解剖学まとめ(〃)	○					25	歯科予防処置まとめ(〃)	○				
6	口腔生理学まとめ(〃)	○					26	口腔保健管理まとめ(〃)	○				
7	病理学まとめ(〃)	○					27	歯科保健指導まとめ(〃)	○				
8	薬理学まとめ(〃)	○					28	栄養指導まとめ(〃)	○				
9	微生物学まとめ(〃)	○					29	歯科診療補助まとめ(〃)	○				
10	口腔衛生学まとめ(〃)	○					30	感染予防学まとめ(〃)	○				
11	歯科保健統計まとめ(〃)	○					31	臨床検査まとめ(〃)	○				
12	衛生･公衆衛生学まとめ(〃)	○					32	摂食機能訓練法まとめ(〃)	○				
13	歯科衛生士概論まとめ(〃)	○					33	歯科器械･材料学まとめ(〃)	○				
14	歯科臨床概論まとめ(〃)	○					34	看護概論･介護技術法まとめ(〃)	○				
15	歯科保存学まとめ(〃)	○					35	隣接医学･救急蘇生法まとめ(〃)	○				
16	歯内療法まとめ（〃）	○											
17	歯周療法まとめ(〃)	○											
18	歯科補綴学まとめ(〃)	○											
19	歯科矯正学まとめ(〃)	○											
20	口腔外科･歯科麻酔学まとめ(〃)	○											

≪評価方法≫

国家試験形式で出題
試験は220点満点とし、132点に満たない場合は再試験を行う

≪教科書・参考文献≫

専門基礎、専門科目にて使用している教科書
歯科衛生士国家試験問題集(医歯薬出版)
その他補助テキストおよび模擬試験問題

≪実務経験≫

歯科医師として診療に従事
副校長として学校運営に携わり、統括して科目のまとめを行う